



令和7年度 学力向上シンポジウムより～その2～

【講演】多様な子供達の「深い学び」を確かなものに～次期学習指導要領に向けた私たちの思いと検討状況～

文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官 岩岡 寛人 氏

3 改訂に向けた我々の探究課題と方向性

1 質の高い授業づくりに直結する学習指導要領にするには・・・

※学習指導要領とは…「日本中のどの学校でも、同じように大切なことを学べるための『全国共通のルールブック』のこと。

【我々の探究課題】・普段の授業づくりのワークフローに学習指導要領が入っていないのでは？

・内容が複雑で、読んでも分からないのでは？

・深い学びって、どうなったら深いなのか分かりにくいのでは？

【方向性】

➡「学びが深まった時にそういう姿が見られるのか」「学びが深まる学習の過程はどのようなものなのか」をしっかり示し、「深い学び」を具体化する。

➡先生方がより活用しやすいように「デジタル学習指導要領」の形にする。

2 多様な子供たちを包摂する、教育課程の柔軟な対応とは・・・

【我々の探究課題】・子供たちの多様な実態が一層顕在化する中、それを柔らかく受け止める教育課程の柔らかさが必要。

・創造的な授業づくりや実践を生み出すための余白を作りたい。

・子供の実態に応じて学校現場が「やりたい」教育活動が、総授業時数の「中」で実現できるようにしたい。

・新しい取組を行う際に必要な組織的な時間を教育課程内で取れるようにしたい。

【方向性】

➡標準時数の弾力化(1015単位時間内で授業時数を調整。一コマ40分の内容を保障する等)

【パネルディスカッション】児童生徒が主体的に学びに向かうための指導の工夫について(概要)

志水 宏吉教授、岩岡 寛人学校教育官、吉川 芳則教授、岡部 恭幸教授、山本 智一教授

【テーマ1】各教科における「深い学びになっている姿」とは？

【理科】学習内容の本質(見方・考え方)に直結するような問いを！

※観察・実験を通して検証可能な問い。答えは、実験に基づいた証拠によってサポートされる。

★小学校の理科の授業で、どれが「科学的な問い」？

・どのようなものが磁石につくのだろうか？ ~~どうして磁石はつくのだろうか？~~ 教室ではどこに磁石が使われているのだろうか？ 金属はすべて磁石につくのだろうか？ ~~磁石はなんでもできるのだろうか？~~

【数学】「問いをもつ」→「一般化する」→「意味や考えを再構成する」。再構成することが深さになる。

★例えば、「5%より大きい分数を作れる？」に対して自分で「問いをもち」、「一般化」する。

発展した問い「1より大きい分数を作ろう」に対して、「意味や考えを再構成する」。

【国語】(学びの対象である)ことば(=作品、文章。話し手のことば)に言語活動(話す・書く・読む)を通してひたむき(=○新たな興味・関心が湧き出ている。「あれ?」「…ということは」。○ことばに関する新たな発見・認識を実感・自覚できている「そうか!」「なるほど」)に取り組んでいる。

➡言語表現(ことば)のもつおもしろさ・豊かさに「気付いた!見つけた!」姿

【岩岡氏】授業の中で、「意味や目的の豊かなつながり」を「推論とメタ認知で自分で再構成する」環境をつくり上げられるか?学習過程をどうつくるかが大切。人間の脳は情報と情報を「つなげて」保存する。

➡「深い学び」は、情報と情報を意味で「つなげて」統合的な理解をつくる学びともいえる。

※メタ認知…分かりやすく言うと「自分の心や頭の中を、一歩はなれた場所から観察すること」。

【テーマ2】「深い学び」となるために、「主体的な学び」や「対話的な学び」がどうあるべきか？そのための教員の手立てや支援は？

(国語) 言語表現(ことば)のもつ**おもしろさ**に気づく(が見えてくる)「**観点**」を示す(場を用意する)。

★「読むこと」における「深い学び」にいざなう教員の役目

→学習(指導)すべき事柄(=教材の本質)は何か、明示する + そこに向かうための、**手がかり**(「**観点**」)を示す。

→自分で考える場づくり、自分でまとめる(書く)場づくり…交流で共通点・相違点を鮮明にさせる。その際、ことばを手がかりに、協力して検討させる。

(算数・数学) 子供の困り感を大切にしたい。クラスの問いをクラスで考え合う。新しく学んだ考え方を

を使う、やってみる。正しいことを共有する場だけでなく、様々な考え方を共有することも大切。

これらを**単元や授業を通して、相互作用しながら実現していく**。また、例えば、分数の学び(2年→3年→4年)がどのように進んでいくかを教員が理解しておく必要がある。

(理科) 理科における**説明活動(対話)の重要性**…対話の質が大切。

★データ(実験結果)を論拠(理由:主張を支える考え)として主張(問題の答え)する。

例:「川を流れる水には、どんな備えが大切なのだろうか」

データ(川の外側では流れが速い)。論拠(水の流れが速いと浸食作用も大きくなる)。主張(川のカーブの外側に護岸工事が必要)

(岩岡氏)「**方略**」の指導に目を向けてみる。

「育成したい資質・能力から単元を考えた」、「様々な学習材量も準備した」、「学びが深まる仕掛けも考えた」、「協働の場面もうまく設定した」

でも子供たちの学びは思った通り深まらない…主体的に学びに向かえない子供もいる…なぜ？

★研究している「方略」の一例…「**自己調整学習のサイクル**」※サポートマガジン「みるみる」参照

(志水教授) やり方(方略)について、そのスキルを身に付けると学びやすい。教員による本質的理解の力を磨くことが大切。教材研究を含めて。

本シンポジウムでも提示されましたように、次期学習指導要領の論点整理では、「主体的・対話的で深い学び」の実装、多様性の包摂、実現可能性の確保の3点が基本的な考え方として示されました。

豊岡市及び市内各校におきましても、これ等の考え方に沿った教育活動が展開されていますが、学びにゴールはありません。引き続き、国、県が示す内容に敏感であるとともに、目の前の子供たちの学びを深める取組を進めていくことが大切です。

本シンポジウムの内容につきまして、校内でもしっかり情報共有していただきますようお願いいたします。